

市制50周年記念事業

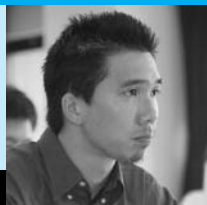
第9回 日本現代陶彫展 2004

THE 9TH CONTEMPORARY CERAMIC ART 2004 TOKI, JAPAN

土・炎・造形

会期 11月28日(日) ~ 12月12日(日)
会場 セラテクノ土岐

祝祭 [森]
浅野暢晴



大地をあるく
瀬田哲司



陶彫展賞に輝いた10作品

土と炎を操る10人の作家

土と炎が生み出す10の造形

家
後藤眞子



記録' 04・VOL6
竹屋 修



地元陶彫展作家に聞く

「陶芸の“陶”は
“闘”でもある」

林 茂樹さん（土岐津町）



林 茂樹

- 1995 静岡県立大学国際関係学科卒業
多治見工業高校陶磁科学芸術専攻
科入学（現在は講師として同校に
勤務）
- 1999 信楽陶芸展入選
ユーモア陶彫展審査員特別賞受賞
- 2003 甄舎展（グループ展）出品
新生-Future Ceramics-出品
- 2004 岐阜県現代陶芸美術館「MINO
CERAMICS NOW 2004」出品

陶彫展受賞おめでとうござ
います。お気持ちをお聞か
せください。

賞をいただいた時は、うれ
しかった反面、本展作品の制
作は大変だと聞いていたので、
不安にもなりました。技術的
な心配もありましたが、制作
時間が足りるのが一番心配
でした。鑄込みで作品を作っ
ているのですが、手捻りなど
に比べ工程も多く圧倒的に時
間がかかります。制作は学校
の仕事を終えてからしかでき
ませんので、毎日深夜までや
っています。八、九月ころ
は周囲の人からも間に合うの
かと心配されました。

制作に当たって苦勞してい
ることなどお聞かせください。

いつも失敗の連続なので、
苦勞は絶えません。これだけ
大きなものを作るのは、初め
で、鑄込んだ土が自重で潰
れるなど、さまざまトラブル
ルがありました。石膏型も巨
大なものですから、運搬など
も重労働です。肉体、精神と
も闘いの毎日ですね。
そんな中、父親が乾燥台を
作ってくれするなど、家族の協
力には感謝しています。大学
卒業後、まったく畑違いの陶
芸の道に進むと言いついたこ
ろは、猛反対していた家族も
今は良きアドバイザーです。

皆さんに見てほしいポイン
トはどこなところですか。

遠い昔、人間が実は高度な
文明を持っていて、一度は月
に移住した人たちが、ふたた
び地球に戻ってきたという空
想をモチーフにした作品です。
いつも鑄込みでしか表現で
きない作品を考えているので、
やきものでこんなものができ
るんだと思ってもらえるもの
ができればと思っています。

制作の様子は林さんのホ
ームページに「陶彫展格闘
日記」として掲載されてい
ます。ぜひご覧ください。
アドレス＝[http://www.geoci
ties.jp/sheceramic/](http://www.geoci
ties.jp/sheceramic/)

縁の下の職人



陶彫展協力事業所
虔山窯 山本虔山さん

この町とやきものが好き

本展作品は、かなり大き
なものなので、ゆっくり焼
いて、ゆっくり冷まさなけ
ればならず、半月くらい窯
がふさがってしまうなど、
事業所にとっては大変なこ
とです。それでも陶彫展に
協力しようと決めたのは、
やはりやきものの町に暮ら
し、やきものが好きという
気持ちからでしょうね。作
家さんの期待に応え、すば
らしい展覧会になってくれ
ればと毎回願っています。

不可能も可能に

やる気があれば、

陶彫展を陰ながら支えているの
が、協力事業所（開山窯インターセ
ラム、虔山、高砂工業、マルホン製陶
所、可児史郎さん）の皆さんです。

作家の皆さんのさまざまな要望
に応えるとともに、培った経験から
アドバイスをし、巨大な作品の焼成
を行うなど、陶彫展になくてはなら
ない存在です。そんな協力事業所
の一つ、虔山窯の山本虔山会長にお
話を伺いました。

られないようなものばかり
ですから、釉薬のかけ方、
焼成の仕方などすべてが未
経験で、とても無理だと思
えることばかりです。しか
し型破りなどが、作品
の良さでもあるわけです。か
ら、無理だとは言えません。
百パーセント作家さんの思
いを表現できるように、そ
れまでの経験をもとにいろ
いろと工夫します。やる気
があれば不可能も可能にな
る、最後はうまく出来てし
まうから不思議です。失敗
できないというのは大変な
重圧ですが、作家さんが納
得する出来栄えだったとき、
さらにその作品が賞に輝い
たときは、とてもうれしい
ものですね。

ここにあります 過去の受賞作品たち

陶彫作品は、市内のいたるところで鑑賞することができます。日本現代陶彫展とユーモア陶彫展の作品を合わせると、約100点が市内に設置されています。

ここでは、第2回から第8回までの日本現代陶彫展の大賞・金賞・銀賞の作品と設置場所をご紹介します。

※第1回は公募形式での実施でないため、省略します。

また、破損などにより現存しないものも省略します。

1 COLUMNS 松尾光伸 第2回大賞

2 アーチ構造 天野裕夫 第2回銀賞

3 整列 植村博幸 第4回金賞

4 Package-88-T 三島喜美代 第2回金賞

5 分集 石井敏子 第2回銀賞

6 表面の立体 石原 薫 第6回銀賞

7 残像'98・II 竹屋修 第7回金賞

8 はらわたの九廻す思い 太田 貢 第3回大賞

9 時の残像 竹屋 修 第3回金賞

10 二等分された遺跡の球体 岩本幸三 第3回銀賞

11 奮起 鈴木又一 第5回大賞

12 面の構造(円) 猪本 拓 第5回金賞

13 鱗型連 影鱗炎V 高山典子 第5回銀賞

14 ー記憶の庭一路 深井聡一郎 第8回大賞

15 脈II 勝野真言 第8回銀賞

16 倒木更新 島 剛 第7回大賞

17 くっ、くっ、くっー 川合正樹 第8回金賞

18 重厚円大蛙 天野裕夫 第6回金賞

19 土属の祖 松浦弘道 第7回銀賞

20 華 伊村徳子 第4回大賞

歴代受賞作品配置MAP

九回目を迎えた

日本唯一の展覧会

「第九回日本現代陶彫展2004本展」が、いよいよ今月二十八日(日)、市立陶磁器試験場・セラテクノ土岐で開幕します。

日本現代陶彫展は、「やきもの」の伝統と歴史を持つ本市が、土と炎が創り出す「やさきもの」と、三次元的な造形美の「彫刻」との融合、すなわち『陶彫』という新しいジャンルの確立を目指して、昭和六十一年から開催してきた日本唯一の展覧会です。

九回目となる今回は、全国公募により一都二府二十二県(海外二人)の百十一人から百三十四点のマケット(縮尺模型)が寄せられました。この中から選ばれた本展出品者は、六月二十九日のマケット審査で陶彫展賞に輝いた十人です。

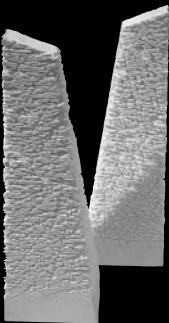
芸術と技術の融合が生む

巨大なアート

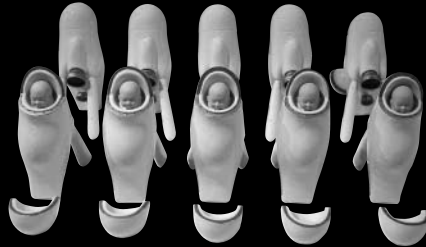
出品する作家の皆さんは、この数カ月マケットを大きくした本展出品作品の制作に取り組んできました。作品は最大で高さ三メートル、幅五メートルという巨大なもので、その成型・乾燥・焼成・組み立ての制作課程では、高度な技術と細心の注意が必要となります。

最終審査は、本展が開幕する十一月二十八日に行われ、大賞、金賞、銀賞の各賞が決められます。審査員は加藤幸兵衛氏(美濃陶芸協会会長)、酒井忠康氏(美術評論家)、手塚登久夫氏(彫刻家・東京芸術大学教授)、日野耕之祐氏(洋画家・美術評論家)、三木多聞氏(美術評論家)、米倉守氏(多摩美術大学教授・松本市美術館長)の六氏。土岐市を舞台に繰り広げられる巨大な造形美の競演を、皆さんもぜひご覧ください。

対柱
服部八美



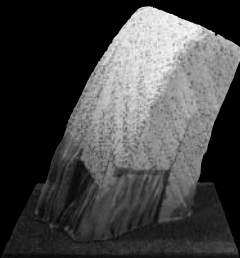
KAGUYA-SYSTEM
林 茂樹



想 (sou)
吉田利雄



たまきはるー
光の雨降る
島 剛



還る
多和田千春



風化
土井宏二

